



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2005年7月1日発行

たんけん通信 第12号

## 2005年度事業計画

### 科学体験活動の場を増やします 洋光台(こども科学館) 本郷台(柏陽高校)

子どもたちに、科学の原理にかかわる面白い実験・工作や自然観察などを体験できる場を提供しようという意図のもとに、2004年度は、4箇所でおもしろ科学体験塾を開催してきましたが、2005年度は、湘南台高校(湘南台)、フォーラム(戸塚)、藤沢市立鵜沼中学(本鵜沼)、横浜市立永野小学校(上永谷)の4箇所に加えて、秋からは横浜市磯子区洋光台にある「横浜こども科学館」との共催により、科学実験教室を開くほか、本郷台にある県立柏陽高校でも「おもしろ科学体験塾」を開催する準備を進めています。あわせて6箇所子どもたちが「おもしろ科学体験」できることとなります。そのほか、港南地区センター主催の教室も始まります。

7月から10月までのおもしろ科学体験塾の内容は以下のようになっています。9月分以降については予定で、まだ募集を開始していませんのでご注意ください。

#### 7月～9月の科学体験塾一覧

月日	地区	内容
7月9日(土)	鵜沼	船をつくろう
7月16日(土)	戸塚	電動ゲジゲジUFOをつくろう
7月23日(土)	上永谷	船をつくろう
7月30日(土)	湘南台/鵜沼	セミのぬけがら調査 <会場は 藤沢市 新林公園>
9月10日(土)	洋光台	ヘロンの噴水をつくろう
9月10日(土)	洋光台	ミニ・ジェットコースター
9月10日(土)	鵜沼	七色の炎を楽しもう
9月17日(土)	湘南台	ライトプレーン(軽ヒコーク)
9月23日(祝)	上永谷	ヘロンの噴水をつくろう
9月24日(土)	戸塚	虹色の涙をつくろう
9月24日(土)	本郷台	電動ゲジゲジUFOをつくろう

★日時を変えて各地区でほぼ同一の内容を、繰り返します。

参加しそこなった方、同じ内容でももう一度参加したい方は他の地区でも、参加できます。詳細案内は案内のチラシまたはホームページで <http://park2.wakwak.com/~tanken/>

★洋光台は、こども科学館への申し込みになります。

7月27日 鵜沼公民館、	7月23日 永野小 CHS
7月28日 永野小 CHS、	8月3日 東戸塚地区センタ
8月23日 辻堂公民館、	8月25日 藤沢公民館、
8月26日 藤沢産業センター(消費生活展への出展)	

(それぞれの内容は各公民館などに問い合わせください)

### 横浜市(教育委員会)との協働事業 科学体験活動推進スタッフ発掘・養成事業 ＝ボランティア育成＝

第1回インストラクター養成集合研修  
男女共同参画センター横浜および  
横浜市青少年育成協会との共催

#### 3日間の集合研修を戸塚のフォーラムで

おもしろ科学たんけん工房の事業目的は、子どもたちが、身近な場所で科学にかかわる体験学習ができるような環境を、広くあまねく作り出すことです。

そのためには、多くのボランティア指導員が地域に存在する必要があります。今のスタッフでは到底足りません。地域の市民が一人でも多く、この事業にボランティアとして参加することが必要です。

そこで、今年は横浜市の協働事業として、年間4回の集合研修と、それに伴う現場実習による、養成研修を実施します。

第1回は男女共同参画センター横浜(通称フォーラム)(戸塚駅西口)を会場として実施します。

簡単に言えば「科学体験活動ボランティア」をやってみようという方の入門講座です。難しい知識を学ぶのではなく、まず体験してみるという機会です。どなたでも意欲さえあれば、参加できます。**多くの方のご参加を期待しています。**

詳細は、別紙募集案内チラシをご覧ください。

第1日	8月20日(土)	午前10時～午後4時
第2日	8月21日(日)	午前10時～午後3時半
第3日	8月27日(土)	午前10時～午後4時
場所	横浜女性フォーラム 2F 生活工房 他	



### 夏休み特別講座：出前科学塾など

7月から9月にかけて多数

おもしろ科学たんけん工房の評判がよく、市民の間におもしろ科学体験塾のような体験学習に対する要望が高まって来ました。今年も多くの公民館(藤沢市)や横浜市の地区センターなどが主催する夏休みイベントに、おもしろ科学たんけん工房が出前の科学塾を引き受けるケースが増えました。(左の表)

<詳細案内と申し込み先はそれぞれの施設になります>

去る5月30日に開催された総会で、下記のとおり2004年度決算、2005年度予算が承認されました。決算書のほかに詳細な事業報告書を神奈川県に提出しており、定款、役員リストなどと共にどなたでもこれをご覧になることができます。

## 2004年度 収支決算の概要

	科 目	金額(千円)	内訳金額
収入	会費・入会金収入	436	
	正会員会費		324
	賛助会員サポート		201
	事業収入	1,116	
	科学塾参加費		933
	育成事業参加費		183
	寄付金	1,066	
	企業からの寄付		500
	個人寄付		566
	助成金・補助金収入	229	
受取利息雑収入	11		
当期収入小計	2,947		
その他収入	1,129		
前期繰越金		1,129	
	収入合計	4,076	
支出	事業費支出	1,898	
	1 科学塾		1,357
	2 普及啓発事業		145
	3 学校支援ボランティア		0
	4 ボランティア発掘養成事業		396
	管理費支出	387	
	当期支出合計	2,285	
	当期収支差額	(663)	
	次期繰越収支差額	1,621	
	(非現金支出)前受け金振替	170	
	支出合計	4,076	

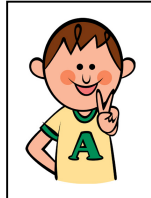
## 2005年度 収支予算の概要

	科 目	金額(千円)	内訳金額
収入	会費・入会金収入	700	
	正会員会費		400
	賛助会員サポート		204
	事業収入	1,387	
	科学塾参加費		1,087
	育成事業参加費		300
	寄付金	400	
	企業からの寄付		100
	個人寄付		300
	助成金・補助金収入	986	
雑収入	10		
当期収入小計	3,483		
その他収入	1,621		
前期繰越収支差額		1,621	
	収入合計	5,104	
支出	事業費支出	3,953	
	1.科学塾		2,285
	2 普及啓発活動		215
	3 学校支援ボランティア		43
	4 ボランティア発掘養成		1,310
	管理費支出	395	
	予備費	50	
	当期支出合計	4,398	
	当期収支差額	(▲915)	
	次期繰越収支差額	705	
	支出合計	5,104	

### 2004年度収支について

#### 企業からの寄付と助成金収入及び予算外の個人寄付と事業収入の伸びにより おかげさまで余裕のある年度でした

NPO 法人として 2002 年 4 月に立ち上げた時支援をお願いしていた企業から今年度も寄付を頂けたことで、比較的余裕ある運営ができました。個人寄付においても、お二人の方からあわせて 300 千円の寄付を頂いことも、大きな要因です。



#### 戸塚区の補助金「青少年感動体験事業補助金」受給

予算には計上してなかった、戸塚区の標記補助金を、横浜女性フォーラムで実施の科学体験塾事業に対し交付を受けることができました。金額は 59,000 円。

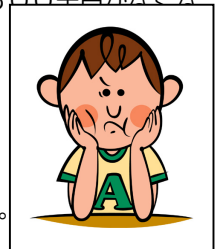
### 2005 年度は当期収支差額が赤字

2006 年度にむけ個人寄付などの収入増が課題

2005 年度は、横浜市との協働事業により、事業そのものは拡大基調にあり、それに伴って支出が増えることは確実なのにたいし、収入のほうは横浜市の補助金を見込んで大変不安な状況になっております。

横浜市の補助金は、事業経費の 1/2 補助の考え方で、当初申請額に対し減額されており、その分法人負担分が増加していること、また、企業からの大口寄付 500 千円がなくなったことがその原因です。

繰り越し金を充当することで、何とかしのぐことはできますが、次の年度に向けた収入増加の方策として、**賛助会員の拡大と、個人寄付・小口の企業寄付の拡大が、急務となっています。**昨年度のご支援に引き続き、皆様



**\*\* 市民の皆さん、地域の方々からの 財政支援をお願い申し上げます。 \*\***

この欄ではスタッフのプロフィールを紹介してゆきます。今回はその第10回です。

**プロフィール 田中 啓順 さん**

A1: 1945年10月4日生、愛知県豊橋市出身、大学の専門は応用化学。通信会社の研究所にて27年間電子部品材料の研究開発に従事。主にプリント配線板材料とLSI用レジスト材料の開発。現在は子会社にて研修を担当。

A2 来年で定年を迎えるに当り、何か自分に出来る出来ないか模索中に、おもしろ科学たんけん工房のホームページを発見。昨年2月にアシスタント登録。来年からは会員として活動したいと考えていますので、ヨロシクお願いします。

A3 :化学実験全般。燃焼など化学反応は危険を伴うものが多いなかでリスクを如何に小さく考えて行きたい。生活の中にある物質とその性質を実験を通して理解させる事が課題。

A4 昔テニス、今バイクと農作業。藤沢市の農業体験講座を申込み、毎週末時間があれば農場に出かけています。野菜の成長を観察するのは楽しみです。

変らない趣味が音楽鑑賞(JAZZ)とオーディオ。

A5 身近のもの(物質)および現象に興味を持ち、分らない事は自分で調べるか人に聞き理解することが重要。即ち、おもしろ科学たんけん工房に参加すること。

A6 アシスタントとして活動して1年ですが、私自身にとって、新しい発見があり、また、身近なもの(百円ショップ)で色々な実験を出来ることに感激しました。子供に教えるより、私が色々勉強させていただきました。

それと会員の方が皆若々しいことに驚いています。今後、私も何時までも若々しく生きたいと思います。ただ、長生きだけを考えるのではなく、自分らしくまた活動的に生きることをモットーにしたいと思います。

\*\*\*\*\*

**プロフィール 水山エツ子 さん**

A1 1951年 横浜生まれ  
平沼高校卒業、 明治大学卒業 専業主婦暦30年

A2 入会の動機・・・子供が好きなので保育ボランティア、遺跡ガイドボランティアなどをしていました。チラシを見てインストラクター講座に参加しました。

A3 漠然としていますが、オリジナルなテーマでやれたらいいなあと思います。

A4 なんの才能もなく、熱しやすく冷めやすいため、広く浅い趣味ばかりです。ほとんどは過去形ですが、スポーツ系(山、スキー、ジャズダンス、テニス、水泳) 工芸系(木彫り、縄文土器作り、ロボット工作) ボランティア系(保育、遺跡ガイド、サッカーワールドカップ、古代人竪穴住居お泊まり、道志水源林整備、おもしろ科学たんけん工房)

A5 見て、聞いて、やってみよう。 たくさん失敗は みんな教科書になる。

A6 名前だけの「アシスタント」です。 本当は「生徒」なのです。 たくさん勉強して、本当の「アシスタント」になりたいです。

- Q1 生まれた年と、簡単な略歴を教えてください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を簡単に説明してください。
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や道楽は?
- Q5 子どもたちに ぜひすすめてみたいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。

\*\*\*\*\*

**プロフィール 熊谷 勲 さん**

A1: 昭和8年生まれ、戦後の混乱期に育ちました。仙台から兄を頼って上京しました。通信機を製造している兄の勤めている会社に定年まで勤めました。部品の製作から機器の設計、据付調整、保守点検も経験しました。

A2 定年後少し仕事をやっていたが、不景気で出来なくなり困っていた時に、「定年時代」の記事をみて応募しました。

A3 数人の参加者と講師一人の構成で参加者の近くの地区センターなどで科学塾が出来れば良いと思います。

A4 何でもやってみますが、趣味、道楽の域に達する前に止めてしまい、これといって得意なものはありません。

夕飯の前にやる一杯の爛酒はやめられません。

A5 おもしろ科学体験塾で、何か工作をする時に感ずることですが、子どもたちの手の力が弱いことです。鉄棒。縄跳び、ボール投げなど、屋外でもっと活発に遊んでもらいたい。

\*\*\*\*\*

**プロフィール 滝本昌彦 さん**

A1: 1939年 京都 伏見 生れ  
太閤秀吉 桃山城の下 酒どころの町(我家も 冷たく おいしい 掘り抜き井戸の水だった) こどもの頃は大きな酒樽で かくれんぼ 樽職人に怒られながら  
また 中学を終えるまで 近所の鉄工所 鋳物屋 化学工場に 毎日 入り浸っていた  
専門は 電気 卒業後 東京に出て 京都弁は抜けず、会議では お笑いになった事も 有りました

A2 寄る年の波に 負けずに 皆と 楽しく思っていた時に 定年時代で おもしろ科学を 知りました

A3 何か ひと工夫をして 子供達に 発想 作る 実現の喜びを 感じてもらいたい  
思いつき 発想 独創 を大切に !!  
“ 物で 自己表現 ” !!

A4 工芸的 DIY 他 グラフィック 現代絵画鑑賞 など 美しいもの 何でもでも好きだが 自力でなかなか出来ない アイデア本意 なんとか ポケ防止!!  
体力は ダウン 一本道 習った 中国整体術で どこまで 食い止められるか ??

A5 こんな事言える がらではないが  
自分で どこまで やれるか  
どのように なっているか 私なら このようにする  
そこらに 転がっている物で なんとか  
その時は “ よーく 考えろ 頭は大切よ !! ”  
イージー ゴーイング は ダメよ !!

A6 まず つくってみよう やってみよう !!



## 私たちがめざすもの

### 「おもしろ科学たんけん工房」

「おもしろ科学たんけん工房」は、子どもたちに「理科が好きになってほしい」という願いをこめて集まったボランティアのグループです。



#### 1. 知識を教えるのではなく、何かに夢中になれる子どもを育てたい。

知っていることと、それを役立てることとの間には、天と地の差があります。単なる物知りの知識では、なんの役にも立ちません。何かに夢中になってのめり込む。そして、その中から自分で掴み取ったもの、それが本当に役立つ知識＝知恵です。

#### 2. “好きこそ物の上手なれ”という言葉があります。

好きになれば、人は、教えられなくてもそのことについて、自分からどんどん学んで行くものです。強い興味さえ持てば、子どもは親がびっくりするくらい、そのことについて深く深く入り込むものです。すべての子どもの中にある「自ら学ぶ力」を信頼しましょう。

#### 3. 今の社会環境が、子どもの集中力と素朴な体験を奪っています。

- ・刺激が多すぎて、集中しにくくさせている。上っ面の興味を引き付けて、子どもの気持ちを集中させないで、気を散らすような事ばかりしています。
- ・世の中便利になりすぎて、素朴な体験の場を奪っている。出来上がった結果を利用するだけで、物事の成り立ちを知らないまま過ごしてしまう。言い換えるといろいろなものが「ブラックボックス」になってしまっていて中が見えない。科学技術の進歩の結果に取り巻かれているために、かえって科学技術への本当の興味を失わせる結果になってしまっています。

#### 4. 感動を伴った素朴な体験で、夢中になれることを子ども自身に見つけさせましょう。

基礎学力(読み書きそろばんなど)と、基礎体力は徹底的なトレーニングで身につけさせる必要があります。しかし・理科、美術、音楽、社会、スポーツ、芸能、など、執念や創造力が必要な領域では、なにかに集中して、のめり込むようにすることが大切。そのキッカケを学校や親や地域が作ってやれば良いのです。

#### 5. 親(家庭)と学校と地域の住民とが連携して良い学習環境＝体験の場を生み出す事が大切。

- ・自分の子どもだけ良ければという考えは捨てませんか? 教育は学校にお任せでもだめ。腰をすえた本物の教育こそが大切です。
- ・地域で連携して良い子が育つ環境を作る。子どもたちが、夢中になれることを見つけられるように、周りが力を合わせて、子どもの中にあるすばらしい能力の芽を見つけて、それを伸ばし広げる努力をしましょう。

米を作るのではなく、まず、田を作れ。

良い田を作れば、良い米ができる。

(前田俊彦「飄漫亭通信」より)

(おもしろ科学たんけん工房 代表理事 安田光一)

お断り:この欄は昨年7月1日号に載せたのと同じ文章の再掲です。受講児童生徒の保護者の方々は、かなり入れ替わっているので、敢て再掲しました。右下も同様です。

2004年度に おもしろ科学たんけん工房を支えてくださった方々(各区分内で五十音順:敬称略)有難うございました

#### ○ 寄付を頂いた方(会員等との重複も含む)(36名+1社)

秋山矜一、飯田剛雄、池田憲昭、石井康博、石岡忠夫、岩田 悟、榎本 晟、大平 元、岡 将大、小原 勉、川口晋介、川出敏一、川畑有郷、菊池誠、小島和子、古高 實、五島研悟、桜井昭信、塩崎裕子、柴田憲男、下山洋子、鈴木節雄、高橋五郎、高橋晴子、滝本昌彦、土屋昌信、仁科 昭、藤田昌康、水山エツ子、宮武和也、宮治資雄、宮治泰子、村田和代、山崎和子、安田光一、若林弘夫、ソニー(株)

(金額 個人計 566,520円;企業 500,000円)

#### ○ 賛助会員の方々の賛助会費)(21名+1社)

浅井多喜子、石岡忠夫、石田雄一、川口晋介、川畑有郷、木下和久、小泉 進、佐藤哲夫、塩田和希、菅谷一郎、菅原健二、世良 明、高橋悌二、竹内秀司、林 松生、藤田昌康、星沢信郎、宮武和也、向野暢彦、山中俊作、山村純二、(株)ブリッチストン横浜工場、(金額合計 145,000円)

#### ○ サポーターの方々の会費(23名)

有馬正人、植木俊二、小川博嗣、小野寺均、川出敏一、神作洋子、熊谷 勲、小島和子、小守 孝、佐藤猛美、佐野善宣、塩崎裕子、品田 幸、高橋晴子、滝本昌彦、田中啓順、幡谷善照、藤島 徹、細木 隆、真野文雄、水山エツ子、宮澤良介、山本明利、(金額合計 56,000円)

#### ○ 正会員のみなさんの会費(37人)

##### ・役員兼正会員(10名)

相川正光、菊池 誠、木村 貞雄、郷 勝哉、柴田憲男、宮治資雄、宮地俊作、森島章伍、安田光一、山田敏之、

##### ・一般正会員(27名)

相坂輝夫、井下田明禧、石井康博、石橋輝夫、岩瀬宏一、榎本 晟、大石京子、小原 勉、川口浩一、古高 實、小松恵一、鈴木節雄、高田明彦、高橋五郎、高畠 輝、土屋昌信、畑尾 逸郎、林靖、福田光和、松島 賢一、松本公成、三澤 昭、宮下盛汪、村田和代、村田晴雄、安田舜二、弓手康史

(金額合計 324,000円)

#### まとめ知識 NPO / 特定非営利活動法人

NPOという言葉が最近目に付くようになりました。文字通りには“Non Profit Organization”の頭文字をとったもので、「非営利組織」と訳されています。

NPOという言葉自体は、法人であるかないかに拘わらず、広い意味で公益的な事業を行なう組織一般を指しています。これに対し、7年前に新たにできた法律にもとづいて設立される「特定非営利活動法人」のことをNPO法人という場合があります。漢字の呼称が長すぎるし、省略しにくいための便宜的な使い方だと思われま。

この場合の「非営利」という言葉の意味はしばしば誤解されますが、これは収益を得る活動を行なわないという意味ではなく、収入から支出を差し引いた剰余金(企業でいうと利益に当たるもの)を、内部に積み立てるのはいいが、会員などに分配することはできない、分配してはいけないという意味です。NPO法人といえども、組織として発展してゆくためには、事業収益や寄付金により資金を内部に積み立ててゆくことは必要なのです。